



目標は最高の舞台で
人を魅了する走りをする
毎日の積み重ねはそのために

HITO

早田俊幸さん

(本田技研陸上競技部・長距離ランナー)

「智光山公園はよく利用します。土の上を走ると足を休められるし、血中へモグロブリンの損傷も抑えられる。少し足を延ばせば本格的なトラックも多く、狭山は練習環境のよい場所です。」とおっしゃる、新狭山にお住まいの早田俊幸さんは、3年後のアテネオリンピックを目指す、日本屈指の長距離ランナーです。

早田選手のデビューは鮮烈でした。駅伝で区間新記録を連発、92年には初マラソン(東京国際マラソン)でいきなり3位に入賞するなど好記録が続きました。このときの上位にはバルセロナオリンピックで銀メダルの森下選手、4位入賞の中山選手がいました。あと少しのところ、オリンピックに出場できなかったのは、なにがなんでもオリンピックへ行きたいという気持ちの面で負けていた

今33歳、3年後には36歳。「自分で年だと思ったら世界で走れなくなるので、いつも第一線で戦う気持ちで体を動かしている。」と語ります。結婚してから体のメンテナンスや食事に対する気配りも、奥さんが分担してくれるようになり、とても感謝しているそうです。



ふだんは他の社員と同じ制服姿。練習は合宿時以外は午後3時からです。

から。「という思いが今はあるそうです。」

高橋尚子選手の母校でもある県立岐阜商業高校では2年生まで野球部に所属、陸上部監督の勧めでランナーに転向したのですが、後で監督からお聞きした話ですが、1年のときから目をつけていてくれたそうで、簡単に転部はしないだろうと、裏で野球部の監督などへいろいろと根回しをされていたそうです。そのおかげで今の自分があることを考えると、感謝の気持ちでいっぱいです。「と恩師への思いを語る早田選手。

無欲のデビュー時期を過ぎ、意識の中でオリンピックが目標として明確になってからは、皮肉にも練習と結果が伴わない時期が続ききました。

昨年からは本田技研陸上競技部に所属し、通常は生産管理ブロックに所属するサラリーマンですが、「僕らの仕事は、走って少しでも前へ出て、目立つことが会社のためにもなることだし自分の知名度を上げることもなると思っています。そういう

意味でまだまだあまり役にたっていないので、いつか恩返しをという気持ちがあります。」と語る表情に、気負いや迷いは見られません。

「個人練習を主体にしていたときもあつたが、これだとあと1歩の追い込みができない。でも今はチーム練習で最後の競り合いもできるようになりました。今の環境にはとても満足しています。」と淡々と話しながら、マラソンは自分にとって世界のトップと競える可能性がある唯一のもの。名前を覚えてもらうのも手っ取り早い方法だと考えています。そこで人に感じてもらえる走りをしたい。」とマラソンに寄せる思いはつきりしています。

5月23日から大阪を会場に行われた第3回東アジア競技大会では、ハーフマラソンの日本代表に選ばれていたものの、直前にけがをしてしまい、残念ながら棄権となってしまいました。しかし、あくまでも目標は3年後のアテネオリンピック。

「絶対とこいえる練習方法はないのですが、スピード化の傾向にある最近のマラソンに対応するため、トラック競技や駅伝でスピード養成をしながら、年1回はマラソンに挑戦していきたい。そして3年後へのアピールをしていければと考えています。まだまだチャンスはあると思っています。」と語る早田選手の目は、しっかりと3年後を見据えているように見えました。

情報は、公開型から発信型へ 電子自治体の実現に向けて ITに取り組んでいます



小学校でもコンピューターを授業に取り入れています。まるで私が小学校のころ画用紙にクレヨンで絵を描いていたような感じでパソコンを使って絵を作っていました。子どもたちから違和感なく取り組めるなんて、すばらしいことだと思いませんか。

REPORTER'S EYE



【リポーター】
江原秀明さん(上広瀬在住)
リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民がレポートします。

皆さんは新聞やテレビで「IT」という言葉を毎日見たり聞いたりしていませんか？それほどITという言葉は私たちの生活に溶け込んできているのだと思いますが、このITとは何のことでしょうか。今回は4月に設置されたIT推進担当の梅村副参事に、これからの狭山市のITについて伺いました。

ITとは、インフォメーション・テクノロジーの略で、インターネットなどの情報通信技術のことを言うのだそうです。国ではITについてすべての国民がインターネットなどの高度情報通信ネットワークを通じて情報や知識を入手し、発信することで個々の能力を発揮し、世界的規模の社会経済構造の変化に対応することとしています。私も自宅でインターネットを使っていますが、いつで

も必要な情報を手に入れることができて、大変便利だと実感しています。情報化についてこれまでの市の取り組みを伺つと、さまざまの手段でいるる分野の情報を公開してきましたが、パソコンが普及し、より多くの情報をより早くという要望に応えるために、公式ホームページを開設しました。その後ホームページを通じて市で開催されている審議会の経過や結果をお知らせしたり、テキストや公民館などの公共施設や図書館にある本の予約サービスなどを行ってきました。このことでしたし、しかし、これからの情報提供は今までのスタイルとは少し違ってくるそうです。『情報公開』からより積極的な『情報発信』になり、市と市民皆さんの間に双方向性が求められます。と伺いました。狭山市でも4月に公式ホームページを充実させ、どんどん情報を発信している一方で、皆さんから市政に対する意見を受け付けられるようにもしています。さらに今月から公共施設予約システムがインターネットでも利用できるようになったほか、近い将来には私たちが市役所に提出する申請書もインターネットで手に入れられるようになったり、イ



インターネットなどで、たくさんの情報が発信されているのですから、私たち利用者も上手に使わないと、もったいないですね。

ことで、住民票などが狭山市以外の市でもとれるようになるそうです。こいつとお話を伺つと、今までは不可能だったことや考えてもみないことが次々と実現されていくよつで、これら快適な社会のためにもIT活用は欠かせないものと再認識しました。そしてもちろんITは行政だけでなく、社会全体に関係することは言うまでもありません。これからの時代は自宅に居ながらにして買い物などが済ませられるなど、経済活動全般がネット中心になっていくのではないのでしょうか。

「このような時代を迎えて快適に生活していくためには、私たち自身が情報を上手に使いこなしていくことが必要だと感じました。子どもから高齢者までみんなが活用できてこそ、本当のIT社会と言えると思います。まだインターネットを利用したことがない人も、今月から始まるIT講習会などに参加して、自分ができる身近な「IT」に取り組んでみませんか。」

また、現在国が進めている施策の一つとして、国民一人一人を認識するICカードを私たちが持つこと、インターネット上でアンケート調査をしたりといったこともできるようになるのだそうです。